

【本文】

安政五年年

中山道往来

五月吉日 平川仁作

【原文まま】

安政五年年

中山道往来

五月吉日 平川仁作

中山道往来

中山道往来

都路はあづま

の海乃ミちかへ

て中山道を心

ざし六十路あ

まりに九つの

中山道往来

都路盤阿づ満

の海乃ミち可へ

て中山道越心

左し六十路あ

ま里尔九つの

都路は、東

の海の道変え

て、中山道を心

ざし、六十路あ

まりに九つの

宿もにきほふ

板橋を跡に見

なして行先

ハもへ出る春

宿も丹起本ふ

板橋を跡耳見

奈し天行先

ハ毛へ出流春

宿も賑ほふ

板橋を、跡に見

なして、行先

は、萌へ出る春

の蕨のさと

伝ふ浦和乃駅

過て爰ぞむさ(し)

乃一の宮大ミヤ

の蕨のさ登

傳ふ浦和乃驛

過天爰ぞむさ

乃一能宮大ミヤ

の蕨のさと、

伝ふ浦和の駅

過て、爰ぞむさ(し)

の一の宮、大宮

をふし拝ミ上

尾に近き桶

川や霧にも

似たる鴻の巢

をふし拝ミ上

尾丹近起桶

川や霧尔毛

似た流鴻の巢

を無事拝み、上

尾に近き桶

川や、霧にも

似たる鴻の巢

も冬籠せり熊

ヶ谷に宿りも

深谷本庄乃古

きを捨て新

も冬籠せし熊

ヶ谷尔宿里毛

深谷本庄乃古

起を捨て新

も、冬籠せり熊

ヶ谷に、宿りも

深谷・本庄の古

きを捨て、新

【書き下し】